

※一般的に英検1級の1次試験の合格率は10%、2次試験の合格率は60%



小さなころから親しんだ 英語で活躍したい



あさひ なつみ
旭 夏見さん (15歳)
横道下在住

金ケ崎中学校3年生。小学校3年生時に実用技能英語検定2級に初挑戦し、1回目で合格。5年生時に準1級を3回目の挑戦で合格。父、母と3人暮らし。好きな食べ物は焼肉。

実用技能英語検定（以下英検）で最難関といわれる1級に挑戦し、見事合格を果たした夏見さん。金ケ崎中学校でも初となる快挙を成し遂げた。

夏見さんが英語に興味をもったのは、両親の影響が強かった。幼少期から家ではアニメを英語で視聴し、母親とは日常会話を英語で行うようにしている。また、金ケ崎町では英語教育の町として力を入れ、幼稚園や保育園でも週1回ELT（※）が訪問しており、幼稚園児時代に家庭以外で英語に触れる機会があり、より興味をもつきつかなったことが自身にとって良い環境だったと話す。

英検に取り組むために、試験前は毎日のように学校や図書館で過去問や傾向対策に取り組んだ。

英検1級は面接試験に5つのテーマから1つを選択し、限られた時間で英語でスピーチを行う。社会情勢問題から出題されるため、日々のニュースや時事問題収集が大切になる。夏見さんは「大学教育を義務教育化すべきか」を選択し、見事なスピーチを披露した。

小さい頃にテレビで世界では適切な医療が受けられない現状を知り、将来は薬を開発する仕事に携わりたくと話す夏見さん。得意の英語を活かし、海外に出て働くことも視野に入れている。英検に受かることがゴールではなく、英語力を活かして自分の選択肢の幅を広げることが大切だと理解し、新たな目標を目指している。

※ English Language Teacher(英語指導助手)

広報日記



秋はイベントが多く、いろいろな場所に取材にお伺いしました。ただし、先月は選挙事務等でバタバタしてしまい、イベントのメインの時間帯に行くことができず、良いシャッターチャンス逃してしまったことが多かったなと反省しています。

物覚えが悪い私は、カメラのスペシャリストの高校時代の友人にスパルタ指導を受け、何とか形になるように練習を繰り返す毎日です……。

練習に行き詰った時に「綺麗な星を目指して、上を向き続けることも大事。でも、疲れてしまった時には、下を向いたって良いんだ。そこには素敵な花が咲いているのだから」という大学時代の和歌の先生の金言を思い出しながら、日々努力したいと思います。(千葉)

人口と世帯

10月31日現在

※()内は前月比

人 □	15,112人	(△ 2)
男	7,753人	(△ 3)
女	7,359人	(+ 1)
世帯数	6,474世帯	(+ 5)